

くすり一口メモ

H₂ブロッカーの腎機能低下時の投与量

腎臓の機能は加齢とともに低下してくることが知られています。腎機能が低下してくると、血中濃度の上昇や排泄の遅延がおこり、それに伴い副作用の増強が起こりやすくなります。これを防ぐためには腎機能の程度に応じて投与量の減量や投与間隔をあけるなどの処置が必要となってきます。

今回は繁用度の高いH₂ブロッカーに的をしぼり、腎機能低下時の用法・用量について調べてみました。

現在、薬価収載されているH₂ブロッカーは6種類あり、ラフチジン（プロテカジン）を除いた5種類が腎排泄型で、腎機能の程度により用法・用量の変更が必要となってきます。下表の用法・用量は胃潰瘍・十二指腸潰瘍の適応量で作成してあります。クレアチニン・クリアランスは血清クレアチニン濃度からCockcroft & Gaultの換算式より推測できます。

Cockcroft & Gaultの換算式

$$\text{男性 Ccr (ml/min)} = \frac{(140 - \text{年齢}) \times \text{体重 (kg)}}{72 \times \text{血清クレアチニン濃度 (mg/dl)}}$$

$$\text{女性 Ccr (ml/min)} = \text{Ccr (男性算出式)} \times 0.85$$

成分名	商品名 (メーカー)	規格 mg (錠・カプセル)	正常者の 用法・用量	腎機能低下時の用法・用量			
				Ccr < 5	5 Ccr < 30	30 Ccr < 50	50 Ccr
シメチジン	タガメット (G・S・住友)	200	800mg分 4	200mg分 1	400mg分 2	600mg分 3	800mg分 4
		400	800mg分 2 800mg分 1				
ラニチジン	ザンタック (G・S・三共)	75	300mg分 2	Ccr < 30	30 Ccr 70	70 < Ccr	
		150 300	300mg分 1	75mg分 1	150mg分 2	300mg分 2	-
ファモチジン	ガスター (山之内)	10	40mg分 2	Ccr 30	30 < Ccr < 60	60 Ccr	
		20	40mg分 1	20mg分 1 2~3日毎 10mg分 1	20mg分 2 20mg分 1	40mg分 2	-
ロキサチジン	アルタット (帝国臓器)	37.5	150mg分 2	Ccr < 30	30 Ccr 60	60 < Ccr	
		75	150mg分 1	75mg分 1 隔日	75mg分 1	150mg分 2	-
ニザチジン	アシノン (ゼリア)	75	300mg分 2	Ccr < 20	20 Ccr < 50	50 Ccr	
		150	300mg分 1	150mg分 1 隔日	150mg分 1	300mg分 2	-
ラフチジン	プロテカジン (大鵬)	10	20mg分 2	Ccrに関係なく			
		20		20mg分 2			-

参考資料 日本医薬品集2003年10月版, じほう
添付文書

メーカー資料

(鹿児島市医師会病院薬剤部 寺師 守彦)